

2016年5月9日

慶應義塾大学大学院経営管理研究科
グローバル・ビジネス・フォーラムによる
日本のグランド・デザイン策定を行う融合型実践教育
Grand Design by Japan Special Seminar
“Project and Program Management for the Grand Design”

「プロジェクト・プログラム・マネジメント」
3日間特別集中セミナー案内
2016年7月29日, 30日, 31日

拝啓

陽春の候、ますますご清栄のことと拝察いたします。

当プログラムでは、Project& Program Management 教育で世界的に活躍されている田中弘講師をお招きし、7月に3日間の特別集中セミナーを英語（必要に応じて日本語で補助）を使用し、実施します。

日本の経済、ビジネス、社会において、何を、どのように取り組むべきか、また、容赦なく進むグローバル化にどのよう同化してくか、という重要な課題を、Project & Program Management の基礎的な経験と知識を得ることを通して検討します。さらに、将来のグランド・デザインを策定するために不可欠な、多様な視点、課題設定、分析方法、協働の方法を理解することができます。詳細は添付のセミナー概要（日本語と英語で解説）をご覧ください。

このセミナーは、日本で初めての試みである、国籍を超えて、社会人・大学院学生・学部学生・大学院教員・研究者が一堂に会して融合型で、英語で実施するものです。

この3日間の特別集中セミナーにおいて、10名の社会人の参加者を募集しております。ご応募の検討をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、このセミナーの母体である、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラムでは、融合型社会人教育により日本のグランド・デザイン策定を行うという目的を掲げ、プロジェクトとフォーラムを中核とする通年の教育活動に、取り組んでおります。

7年目の2016年度プロジェクトとしては、健康と医療、震災後の日本と世界を題材にしたビジネスモデル、世界との共生・協創による日本の発展と国際的なインフラストラクチャ開発、アジア、中国周辺地域等の国際政治(地域研究)、農業、医療、水産業、地域再開発などの各プロジェクトを予定しております。ご案内している特別セミナーは、このグランド・デザイン策定の融合型教育プログラムのオリエンテーションとしても位置付けております。併せて参加のご検討をいただきたくお願いします。

敬具

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 担当 姉川知史（富士通チェアシップ教授）

keio.grand.design@gmail.com

Tel. 045-564-2015, Fax. 045-562-3502

3 日間特別集中セミナー

2016 年 7 月 29 日 (金) - 31 日 (日) (3 日間集中)

(i) 本セミナーのみに参加する社会人 10 名 (今回募集)

(ii) 「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラム参加者 20 名 (選抜募集)

下記要領で、参加者を募集します。

内容「日本のグランド・デザインを策定する融合型実践教育」による 3 日間の特別集中セミナー

「グローバル・ビジネス・セミナー」“Project and Program Management for the Grand Design”

日程 2016 年 7 月 29 日 (金), 30 日 (土), 31 日 (日)

場所 慶應日吉キャンパス 協生館

実施主体 慶應義塾大学大学院経営管理研究科「ビジネス・教育研究開発室」ならびに
「グランド・デザイン策定の融合型教育プログラム」

企画・監修 姉川知史 Ph.D. 慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授

講師 田中 弘 (別紙) 井上多恵子 (別紙)

言語 英語 (必要に応じて補助言語として日本語を使用)

参加者 (i) このセミナーのために新規募集する社会人 10 名 **募集形態 1**

(ii) 「グランド・デザイン策定の融合型教育」プログラム参加予定者から 20 名選抜
募集形態 2

最小挙行人数 15 名, 最大挙行人数 40 名前後

全体として, 学部学生, 経営管理研究科学生, 他研究科学生, 社会人, 教員, その他の各層からバランスよく参加者を募り, 融合型教育を行う。

修了書 本セミナー修了者のうち(i) (ii)の参加者には, 慶應義塾の修了証書を授与する。修了要件は 3 日間を通した出席と, 講師による評価。

*本セミナーの講師であり, 国際プロジェクトマネジメント界で著名な田中弘講師による, 下記の英文証明書を授与する。

① 参加者が,世界の 6 つの大学院大学 (フランス, セネガル, ウクライナ, ロシア) で田中教授が教える講座と同等内容を履修して,これを修了し, International Innovation Project & Program Management 人材と認定する旨を記載した英文修了書。

② この中で, いくつかのプロジェクトマネジメント協会の資格試験受験や資格取得後の学習ポイント維持に申告可能な 21 時間分の学習ポイント証明事項を記載する。

料金 3 日間 6 万円/人。日本のグランド・デザインを策定する融合型実践教育プログラムからの選抜者は料金を免除の予定

申込 :

次のページの申込書を印刷し, 必要事項をご記入のうえ, 申込書記載の FAX 番号宛て FAX 送信するか, 申込書をスキャンして e-mail アドレス

keio.grand.design@gmail.com まで e-メール添付でお送りください。

以 上

Grand Design by Japan
3日間特別集中セミナー参加申書
プロジェクト・プログラム・マネジメント
2015年7月29日, 30日, 31日
(7月22日締め切り)

本申込書を **FAX** にて, **FAX 番号 045-562-3502** にお送り下さい

Application Form, Grand Design by Japan, Fax. 045-562-3502

Both Japanese and English information is required if available.

Date of Application: (申込日付) July, 22, 2016

Name(氏名) _____

Name of School, Department (所属大学) 大学所属者のみご記入ください

_____ Year : Faculty Ph.D., Master Undergraduate

また,

Name of Affiliation, Position (勤務先) _____

Address 〒 _____

住所 : 〒 _____

Contact : Tel.: _____ Fax.: _____ E-mail: _____

Additional Information: _____

Contact Information

Office of the Grand Design by Japan Program

慶應義塾大学大学院経営管理研究科

Keio University, Graduate School of Business Administration

4-1-1 Hiyoshi Kohoku, Yokohama-city, Japan 223-8526

Tel. 045-564-2015, Fax. 045-562-3502

E-mail : keio.grand.design@gmail.com, Anegawa

URL: http://anegawa.kbs.keio.ac.jp/Grand_Design_Project/

セミナー開催の背景

本集中セミナーは、現在の日本、世界にもっとも求められる社会・経済価値のダイナミックな構築のためのプロジェクト型マネジメントの知識とスキルを習得するものである。

2008年時点に、世界銀行の統計や世界のプロジェクトマネジメント研究者が行った推計によると、世界全体でプロジェクト投資とプロジェクト型事業（製造業のプロジェクト化など）がGDPに寄与する比率は約33%であったが、この比率は、リーマン・ショック、ユーロ危機、世界同時不況を経て、現在では、先進国と新興国においては50%程度にまで上がっていると推定される。

この状況下で、

- 多くの産業分野において、既存ビジネスの全体パイと自社シェアが縮小するなかで、成長を維持するためには、新たな製品やサービスを継続的に投入するプロジェクト型ビジネスが不可欠となっている。
- 2013年以來再生が進んだ日本企業は、世界の成長センターであるアジアを中心として海外事業展開を進めており、プロジェクト的な新規事業を次々と打ち出している。ここでは製造業とサービス産業の新たなビジネスモデルが生まれている。
- 多くの国、地域で財政赤字が続いており、公共サービスの在り方に機動性、革新性（プロジェクト性、Value for Money原則の採用、民活の利用）が求められている。
- また、山積する社会課題は伝統的な公共マネジメントのみでは解決できない。
- 新興国には、社会基盤の高度化や、新中間層に向けた市場機会が、また、新興国と途上国共に慢性的なインフラ（特に電力、輸送手段）不足が顕著であり、インフラプロジェクトは巨大な市場となっている。

このような状況では、新たなマネジメントモデルが必要であり、次のような知識と基礎スキルを習得することがプロジェクト化時代の経済と社会で勝者となるための一つの条件になる。

- ✚ 特定目的の達成活動を行ううえで、活動を30%*短い期間で、30%*低いコスト（あるいは資源）で達成するための、プロジェクトマネジメント（PM）が提供する高効率段取り知識、スキル。 *2000年頃の米国の調査データ
- ✚ より高い価値を提供するプロジェクトを組成するために、プロジェクトの総合的な目的の設定、複数の機能・手段（技術など）・ステークホルダー（参画者・連関者）を合理的に糾合し、またプロジェクト実現のための資金調達（ファイナンス）を計画するための知識。
- ✚ プロジェクト業務の生命線である「プロジェクトマネジャー/リーダー、チーム員として動ける」、「プロジェクトマネジャー/リーダーとして人を動かせる」、ためのプロジェクト組織・コミュニケーションの知識とスキル。
- ✚ プロジェクトは、賛同し、支援し、協働してくれる人達がいって初めて成立する。「プロジェクト計画を売り込む」ための、ストーリーテリングとプレゼンテーションのスキル。
- ✚ 現在、第3世代のプロジェクトマネジメントとして世界で定着しつつある「プログラムマネジメント」（高付加価値獲得、イノベーションのための戦略的マネジメント）の基礎知識。
- ✚ サービス経済、ナレッジ経済にあってのプロジェクトマネジメントの関わり方の理解。

本セミナー受講をお勧めする方

社会人で、

- “プロジェクト化経済“にあって、プロジェクトマネジメントを、世界でそのまま通用するグローバル・ランゲージで学びたい人。
- プロジェクトマネジメントの実践が「こなし型」（基本計画が終わっているプロジェクトの遂行を粛々と纏めるタイプ）から、「創造型」（新しいビジネス価値を獲得するプロジェクトを企画するところから入るタイプ）と「こなし型」との混合、に変わりつつあるなかで、創造型のプロジェクトマネジメントを学びたい人。
- ビジネススクールの、複数教員・社会人・大学院生による多国籍融合クラス環境で、生きたプロジェクト系マネジメントを、英語で学びたい人。
- 世界的に通用する高度プロジェクトマネジメントセミナー修了証を取得したい人。

学生で、

- プロジェクト化経済時代のマネジメントであるプロジェクト&プログラムマネジメント、あるいはサービスサイエンスの知識と基礎知識を、世界のPM共通語である英語で習得したい人。
- プロジェクトマネジャーやプロジェクトリーダーになりたい人。
- （新技術）開発などで、（技術）+ α のところを習得したい人。
- プロジェクト事業を主体とする企業に就職したい人。
- プロジェクトマネジメント資格を保有する人は世界で 250 万人程度居り、世界のビジネスの多くの局面でプロジェクトマネジメント資格の保有の有無、あるいは、プロジェクトマネジメント協会の正規講座あるいは大学で有資格（Qualified）教員が教えたプロジェクトマネジメント科目の履修経験が問われる。これに備えたい人。

本セミナーの特長

- レクチャー、クラス討議、グループ演習（ワークショップ）で構成される。
- グローバル・プロフェッショナルPM界のリーダーの一人でありフランス、セネガル、ウクライナ、ロシア、日本（国立大学院大学）の大学院でプロジェクトマネジメント専攻教授の資格を持つ主任講師とプロジェクトマネジメント協会のグローバル研修上席講師兼現役ビジネスパーソンによる、グローバル基準のセミナーである。
- 教材は、著作権遵守を条件に、電子オリジナルファイルで提供され、実務応用しやすい。
- 国内トップのビジネススクールで、多国籍、複数教員・大学院生・社会人の融合によるクラス進行を通じて、マルチカルチャー下でミニ・プロジェクトを経験できる。
- 慶應義塾大学大学院経営管理研究科のセミナー修了証と国際的なプロジェクトマネジメントセミナー修了の英文証明書（兼プロジェクトマネジメント資格関連の継続学習証明書）を同時に取得できる。

プログラム

日にち		時間帯	テーマ
7月29日	金曜日	0930～1000	オンサイト（受講会場）受講登録
		1000～1230	<ul style="list-style-type: none"> • 開会・講師及び受講者自己紹介 ■ セッション1「プロジェクト論」田中 弘 <ul style="list-style-type: none"> <講義・演習> • 世はプロジェクトの時代（プロジェクト経済） • プロジェクトの客体である社会システムとは • プロジェクトは「社会に変化をもたらすデザイン」 • 通常の活動とプロジェクトの違い • プロジェクトを際立てる特徴 • プロジェクトのシステムの性質 • プロジェクトの大目標について – 大きな志を持ったプロジェクトの成果目標を立てる • グランド・デザインとイノベーションに向けたプロジェクト
		1230～1330	昼食
		1330～1700	<ul style="list-style-type: none"> ■ セッション2 「グランド・デザイン/イノベーションのためのプロジェクト構想化」田中 弘 <ul style="list-style-type: none"> <講義+討議> • プロジェクト開発序論 • プロジェクト構想化の4つのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 1) システムズ・アプローチ 2) プログラムマネジメント 3) 主要マネジメント論によるブレインストーミング 4) サービス・イノベーション • 現在価値法を使用したプロジェクトの収益評価
7月30日	土曜日	1000～1730 昼食 1230～1330	<ul style="list-style-type: none"> ■ セッション3「プロジェクトマネジメント」井上多恵子 <ul style="list-style-type: none"> <講義+演習> • プロジェクトマネジメントのワークフロー • プロジェクトのライフサイクル観 • プロジェクトのスコープ（範囲）設定；ワー

			<p>ク・ブレークダウン・ストラクチャ WBS 手法を中心に)</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクトの時間計画 (プロジェクトスケジューリング) コストの考え方 プロジェクトマネジメントにおける品質 プロジェクトの組織とステークホルダーの考え方 プロジェクトの進捗管理 プロジェクトの全体マネジメント - プロジェクトマネジャーの仕事
7月31日	日曜日	1000~1730 昼食目途 1200以降適宜60分	<p>■ セッション4「プロジェクトマネジメント・計画ワークショップ」田中 弘, 井上多恵子</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 1000: 選定テーマに関するブレインストーミング ✓ 1100: プロジェクト・ミッション設定, 価値分析, プロジェクト計画概要書作成 ✓ 1300: ステークホルダー関係分析, プロジェクト組織, WBS, プロジェクト・スケジュール, コスト ✓ 1400: ファイナンス計画, プロジェクト遂行戦略 ✓ 1500: 発表資料纏め ✓ 1600: 演習成果発表各グループ発表 20分 + 質疑応答/討議 5分 • 1730: 纏め <p>全体講評・閉講</p>

使用言語

教材, 講義と演習の発表は英語とする. 講義中の質問と演習中の討議は日本語使用可.

セミナー講師

主任講師 田中弘 (TANAKA, Hiroshi, Ph.D.)

Pacific & Atlantic PM Innovation (個人イニシアティブ) 代表. フランス SKEMA 経営大学院博士課程国際教授, 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学客員教授など, フランス・セネガル・ウクライナ・ロシア・日本で大学院教授資格を有する. 戦略・イノベーションプロジェクト & プログラムマネジメント学専攻. 日揮株式会社出身, 日本プロジェクトマネジメント協会

(PMAJ) 創設者・前理事長, 世界 PM フォーラム元チェアマン (2005-2007). 経済産業省傘下 (一財) 海外産業人材育成協会 (HIDA) 途上国向プログラム & プロジェクトマネジメント研修コース・ディレクター. 世界 30 カ国で 150 回におよぶ基調講演・招待講演実施. 日本・ウク

ライナ・インドから国家表彰受賞.世界のプロジェクトマネジメント界に複数ネットワークを有す.1997年慶應義塾大学法学部政治学科卒.2006年フランス Ph.D.授与.その後ウクライナ国立工業大学から名誉教授学位など4件授与.

講師 井上多恵子 (INOUE, Taeko)

日本の総合エレクトロニクス企業にて海外営業(北米→豪州→ヨーロッパ担当),本社総合企画部ベルリンプロジェクト,メディア事業,グローバルソリューション標準開発,調達本部人財育成(統括課長),グローバル人事グローバル人材育成組織開発(現在)などを担当.米国在住10年・オーストラリア在住3年.海外渡航多数.(特)日本プロジェクトマネジメント協会 P2M-PMS 研修認定講師・英語 P2M 教育上席講師.英文履歴書コンサルタント・レジюмеプロ代表

(<http://resumepro-mt.wix.com/taeko2>)

通訳案内業資格(1984年),TOEIC990点(満点).JCDA 認定 CDA,日本能率協会 CPP.東北大学大学院工学系研究科博士課程実践プロジェクトマネジメント講座講師・同学工学研究科非常勤講師(英語特論),慶應義塾大学経営管理研究科「日本のグランド・デザイン策定を行う融合型実践教育」英語 P&PM セミナー講師,フランス SKEMA 経営大学院パリ校夏季 P2M 講座招待講師(2010年).グローバル・コミュニケーションに関する著書3冊.1985年一橋大学社会学部日米関係専攻学士.1991年2月 Macleay College, Australia, Diploma of Journalism.

Keio University Graduate School of Business Administration
“Grand Design by Japan” Program

July 29, 30, 31 Special Seminar
Project and Program Management for the Grand Design

Date: Friday July 29, Saturday July 30 and Sunday July 31, 2016 (3-full day seminar & workshop)

Venue: Keio University’s Keio Business School, Executive Room 5th Floor, Kyousei-kan, Hiyoshi Campus

Organizer: Keio University Graduate School of Business Administration/Keio Business School (KBS)

Learning Objectives

- Learn, in three days, essence of management in project context, a contemporary paradigm of organizational management racing against complexity, competition, time, resources and ever increasing service feature.
- Know how to apply project management fundamentals for innovation to themes of the day, thereby contributing to actions on our common grand goal “Grand Design by Japan”.
- Benefit from pragmatic, concise contents but supported by robust theories in the bottom as a seminar delegate is exposed to an essential framework of strategy formulation and delivery in a project context, in particular, under the current highly complex markets, and more broadly, socio-economic environment.
- Get cross-fertilized among participants with different backgrounds for breakthrough inspiration.

Seminar Language

- English is used in the teaching materials, lectures, discussions and participants’ presentations to endorse the spirit of the “Grand Design by Japan” program and to allow opportunities of non-Japanese speaking graduate students and business persons to participate in the program.
- Partial Japanese conversation is allowed, or instructor – participants dialogue in Japanese, when necessary, is encouraged during workshop exercises but to the extent that essential discussions are shared by non-Japanese students as well.

Seminar Features

- The course consists of lectures; discussions; short exercises and a one-day workshop.

- The seminar class is open to a mix of graduate students, undergraduate students, business persons and academia, with different exposure to project environments. No prerequisite is set but challenge spirit is required.
- Course contents are compatible in theories with global practice of project and program management and are uniquely laid out by the course director who has 40+ years of experience in the global project management practice and 13 years of teaching at graduate schools in Europe and beyond.
- Japanese project and program management strength is woven into the course.

The Seminar Message

We are navigating through relentless global competition, unprecedentedly fluid and turbulent politic-socio-economic-technological changes as well as a whirling wave of development. Organizations, be private or public, are forced to seek breakthrough in their operations to grow or at least survive.

Project management, embracing dynamic management paradigm of the day, is a global language in all sectors. At the same time, the project management discipline is evolving rapidly to include innovation elements to respond to the question of “what to make” in addition to “how to most efficiently make”.

Also, we should be directed to learning how service innovation should occur by applying innovation project management as the knowledge economy is gaining momentum especially in East Asian countries.

This three-day seminar and workshop delivers to participants, both fundamentals of project management and its broader application for innovation and grand design by means of plain-language courseware, including typical method illustrations.

Faculty

Organizer and Supervisor of the Grand Design by Japan Program:

Professor, Dr. Tomofumi Anegawa, Ph.D.

Keio University, Graduate School of Business Administration

Seminar Instructors

Professor, Dr. Hiroshi (Hiro) TANAKA, HDR-Ph.D.

Practitioner – Producer – Global Analyst – Professor of Strategy, Project and Program Management

Pr. Hiroshi Tanaka is Founder and Immediate Past President of Project Management Association of Japan (PMAJ). He has 42 years of experience in the global engineering and construction industry; 13 years of COO/CEO experience at Japan’s national project management associations; three years of Global Project Management Forum (GPMF) chairmanship; and 14 years of practicing professor/researcher status in strategy, project and program management. Pr. Tanaka is affiliated professor at graduate schools in France, Senegal, Ukraine, Russia and Japan. He has taught 90

days and produced as supervisor four Ph.D.s and examined two more Ph.D. candidates in France over the two years from 2014 to 2016. Pr. Tanaka has close relationship with academic or professional institutes in USA, France, India, Ukraine, Russia, China, Senegal, Australia, Singapore and the Philippines.

Ms. Taeko INOUE

Global Communications Trainer – Professional of Project Management

Ms. Taeko Inoue is manager of global human resources development and project manager for global employee integration initiatives at a large Japanese electronics company. She has been engaged in global marketing – North America, Oceania and Europe; program management for a European media and communication center project in Germany; planning for media and solutions business; business process standardization, HRD planning and implementation for employees with corporate headquarters supply chain division. She is a State Licensed Guide-English, holds PMS - Project Management Specialist title qualified by Project Management Association of Japan (PMAJ); is a senior global instructor of P2M – Project and Program Management for Innovation of PMAJ; and teaches project management and communications at Tohoku University Graduate School of Engineering and The Overseas Human Resources and Industry Development Association (HIDA). Ms. Inoue has Bachelor of Social Sciences from Hitotsubashi University and Diploma of Journalism from Macleay College, Australia.

Course Program

Date		Topics	
July 29 th	Fri.	0930~1000	Onsite registration
		1000~1230	Opening and Introduction Session 1 Introduction to Projects <ul style="list-style-type: none"> • Projectized economy: why we need projects? • Unique profile of a project • Project as a social system transition vehicle • Project as a design for changes in organizations • Systemic nature of a project • Projects for grand design and innovation
		1230~1330	Lunch
		1330~1700	Session 2 Developing a Project for Innovation and Grand Design <ul style="list-style-type: none"> • Project development fundamentals • Four routes of conception of innovation projects: <ol style="list-style-type: none"> 1) Systems approaches – hard and soft 2) Program management

			<p>3) Brain-storming using common management theories</p> <p>4) Service innovation</p> <ul style="list-style-type: none"> Financial analysis by the Net Present Value (NPV) method
July 30 th	Sat.	<p>1000~1730</p> <p>Lunch</p> <p>1230-1330</p>	<p>Session 3 Project Management</p> <ul style="list-style-type: none"> Universal concept of project management Project management work flow Plain objectives of project management Project scope planning and management Quality in project management Project time management Project resources management Project cost planning and management Project risk analysis and management Project formation and organization Project integration management
July 31 st	Sun.	<p>1000~1730</p> <p>Lunch around</p> <p>1200</p>	<p>Session 4</p> <p>Project Management Workshop</p> <p>1000 : Strategy brainstorming on a group-selected project theme</p> <p>1100 : Setting a project mission, value analysis, development of a project proposal</p> <p>1300 : Stakeholder analysis, organization, work breakdown structure (WBS), project schedule, cost estimate</p> <p>1400 : Finance planning, project execution strategy</p> <p>1500 : Compiling & editing a result presentation file</p> <p>1600 : Result presentation</p> <p>Each group for 20 minutes followed by 5-minute Q&A, and instructor feedback</p>
		1730	Wrapping up the seminar

Assumed Participants

- Delegates from business companies and agencies
- Members of the KBS "Grand Design by Japan" Program
- Graduate students with KBS, Keio University Graduate School of Science & Technology, and other graduate schools
- International exchange students at Keio University and other universities
- Academia/researchers

Teaching Materials:

To be provided to the registered participants at the Program Secretariat prior to the course (starting July 1st):

- Course Text Slides (by PDF CDROM or large-volume file transfer system prior to the course)
- Project Management Workshop Guide Slide (ditto)

Course Registration

Two-steps of the Registration, Application, Admittance, and Registration

1-st step: Application should be made by submitting the form to the office of the "Grand Design by Japan" program by July 22, 2016.

2-nd step: The office replied the admittance and registration information is given to each participant 3 days after application.

Course Certificate

Upon completion of the three-day program, two certificates will be awarded to participants: one from Keio University Keio Business School in Japanese and the other in English by Pr. Hiroshi Tanaka supporting that the course participant has completed a global seminar equivalent to the fundamental level of a structured project and program management course at graduate schools in Europe.

Program Fees

60,000 Yen fee for the full seminar.

(Fees are waived for the official members of the Grand Design by Japan program and students admitted into the seminar upon request and subject to the conditions laid by KBS.)